「研究」発表 新幹線がつなぐ

上田高で沿線SGH校など「サミット」

国際的に活躍する人材を育成する文部科学省のSGH（スーパーグローバルハイスクール）校に指定されて3年目を迎えた上田高校（上田市）は17日、北陸新幹線（長野経由）沿線地域のSGH指定校などを招く「北陸新幹線サミット」を同校で初めて開いた。国際協力、医療・福祉、地域活性化をテーマとして続けてきた課題研究の発表を通し、生徒間の交流を深めた。

国際協力や医療・福祉 県内外80人討議

課題研究について発表する間篠さん（左）

サミットには県内6校と、石川、新潟、埼玉、東京などの県外6校、計約80人の生徒が参加。分野ごとの分科会で発表を聞き、討議した。

国際協力について考える分科会では、上田高校3年の間篠花音さん(17)が子どもの貧困について発表。1年生の時、SGHプログラムの一環でフィリピンを訪れたのをきっかけに研究を始めた。国内の子どもの貧困問題にも目が向くようになり「高校生を含め幅広い世代で知恵を出し合うことで、子どもたちは教育を受ける機会などが平等に守られた世界で生活できるようにな る」と結論を述べた。

事故があった東京電力福島第1原発から30キロ圏内にあるSGH指定校、ふたば未来学園高校（福島県広野町）も特別参加。広野町を含む福島県双葉郡の高齢者を支えることをテーマに話した。

SGH指定校の長野高校（長野市）でいずれも2年の関谷晴南さん(16)、瀧沢晴香さん(16)、湯山亜依さん(16)は、動物の殺処分の現状について調査し課題を提言。ほかに、地域医療や地元への外国人観光客の誘客についての発表もあった。

間篠さんは「国際協力に興味のある他校の生徒と意見交換ができ、有意義だった」と話していた。